

証券コード6859

2025年度(2026年3月期) 第2四半期
エスペック株式会社 決算説明

2025年11月21日
代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

エスペック株式会社 代表取締役 執行役員社長の荒田でございます。
それでは、決算概要についてご説明いたします。

2025年度上期 決算概要

- ・AI半導体関連の電子部品・電子機器の試験需要が堅調、北米では衛星通信関連の投資が好調
受注高は過去最高を更新するも、大型製品や複数台一括の長納期案件が多く、売上高は前年同期並み
- ・利益面は、カスタム製品の収益性改善は進んでいるが、EV需要減速に伴う受託試験サービスの収益性悪化や中国における競争激化により前年同期比で減少
- ・上期の進捗を踏まえ通期業績予想を修正、配当は修正なし、株主還元方針に基づく自社株買いの実施を発表

| | 前年同期比 | 期初予想比 |
|----------------------|---|--|
| ■受注高 | ○ 特に装置事業(環境試験器)と その他事業が増加 | ○ 装置事業(主に環境試験器)とその他 事業が上回る |
| ■売上高 | △ 装置事業は半導体関連装置が増加し たが環境試験器は長納期案件が多く 減少、エネルギーデバイス装置も減少。 サービス事業は受託試験が伸びず 前年同期並み | × 装置事業は半導体関連装置が増加し たが環境試験器は長納期案件が多く 減少。サービス事業は主に受託試験が 下回る |
| ■営業利益 | × 売上高の遅れおよび原価率の悪化に より減少 | × 売上高の未達および原価率の悪化に より下回る |
| ■親会社株主に帰属 する中間純利益 | × 営業利益の減少により減少 | × 営業利益の未達により下回る |

■ 配当予想 中間45円、期末70円、年間115円

ESPEC CORP.

1

2025年度上期の決算総括といたしましては、受注高は、ターゲット市場であるAI半導体関連の電子部品・電子機器の試験需要が堅調に推移するとともに、北米の衛星通信関連の投資が好調に推移し、過去最高を更新しました。売上高は、大型製品や複数台一括の長納期案件が多く、前年同期並みとなりました。利益面につきましては、残念ながら前年同期比で減少し、予想を下回りました。主な要因としましては、これまで注力してきたカスタム製品の収益性改善は進んだものの、受託試験サービスがEV需要減速の影響を受け、売上を伸ばすことができなかったこと、また、中国における競争激化による収益性の悪化によるものです。

このような上期の進捗を踏まえ、通期業績予想を修正いたしました。

なお、配当については修正しておりません。

また、株主還元方針に基づき、自社株買いの実施を発表しております。

前年同期比では、受注高は、特に装置事業とその他事業が増加しました。

売上高は、装置事業では半導体関連装置が増加したものの、環境試験器とエネルギーデバイス装置は減少しました。サービス事業は前年同期並みとなりました。営業利益につきましては、売上高の遅れおよび原価率の悪化により減少しました。

期初予想に対しては、受注高は装置事業とその他事業が想定を上回りました。

売上高は装置事業の半導体関連装置が増加したものの、環境試験器は減少しました。また、受託試験サービスが計画を下回りました。

営業利益は、売上高の未達および原価率の悪化により、期初予想を下回りました。

2025年度通期業績予想

| | (百万円) | | | | | | | |
|-------------------------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| | 2024年度 | 2025年度 | | | | | | |
| | | 通期実績 | 期初予想 | | | 上期実績 | 予想(11/13修正) | |
| 上期 | 下期 | | 通期 | 下期 | 通期 | | 前期比 | |
| 受注高 | 67,514 | 33,500 | 32,500 | 66,000 | 38,636 | 30,364 | 69,000 | +2.2% |
| 売上高 | 67,288 | 31,000 | 37,000 | 68,000 | 30,322 | 37,678 | 68,000 | +1.1% |
| 売上総利益 利益率(%) | 23,987 35.6% | 11,500 37.1% | 13,900 37.6% | 25,400 37.4% | 10,554 34.8% | 13,646 36.2% | 24,200 35.6% | +0.9% ±0pt |
| 販管費 販管費率(%) | 16,460 24.5% | 8,150 26.3% | 8,750 23.6% | 16,900 24.9% | 7,947 26.2% | 8,653 23.0% | 16,600 24.4% | +0.8% △0.1pt |
| 営業利益 利益率(%) | 7,526 11.2% | 3,350 10.8% | 5,150 13.9% | 8,500 12.5% | 2,607 8.6% | 4,993 13.3% | 7,600 11.2% | +1.0% ±0pt |
| 経常利益 利益率(%) | 7,793 11.6% | 3,450 11.1% | 5,200 14.1% | 8,650 12.7% | 2,704 8.9% | 5,045 13.4% | 7,750 11.4% | △0.6% △0.2pt |
| 親会社株主に帰属 する当期純利益 利益率(%) | 6,003 8.9% | 2,500 8.1% | 3,690 10.0% | 6,190 9.1% | 1,912 6.3% | 3,887 10.3% | 5,800 8.5% | △3.4% △0.4pt |
| 1株当たり 当期純利益(円) | 274.97 | 114.51 | 169.02 | 283.53 | 87.49 | 177.61 | 265.10 | △3.6% |
| ROE | 11.0% | — | — | 11.0% | — | — | 10.0% | △1.0pt |

ESPEC CORP.

2

通期の業績予想はご覧のとおりです。

受注高と利益面を修正しております。

売上高につきましては、期初予想から変更しておりません。

次のページで修正の考え方をご説明します。

なお、上期末時点の受注残高は360億円となっております。

前上期末時点よりも約24億円増加しております。

2025年度通期業績予想の考え方

- ・受注高は、中計ターゲット市場のAI半導体、北米の衛星通信を中心に堅調、通期計画を上方修正
- ・売上高は、受注残高の消化が進むとともに、比較的納期の短い標準製品の販売強化による売上拡大を見込んでいることから、期初計画を据え置く
- ・利益面は、装置事業は利益率向上が進み、中国の収益改善も見込むが、EV需要減速に伴う受託試験サービスの挽回は難しく、下方修正

通期業績予想の考え方についてですが、
受注高につきましては、上期の勢いは落ち着くものの、
中計ターゲット市場のAI半導体、北米の衛星通信を中心に堅調に
推移しており、通期計画を上方修正しました。

売上高につきましては、
受注残高の消化が進むことから期初計画を据え置きました。
また、比較的納期の短い標準製品の販売を強化し、期中の売上に
つなげる考えです。

利益面につきましては、
装置事業はカスタム製品だけでなく、標準製品においても売上拡大により
利益率向上が進むと見ております。
また、上期に収益が悪化した中国においても、競争力のある製品投入と
販売強化による収益改善、受託試験サービスにおいても、
バッテリー以外の堅調な分野の拡販に取り組みますが、
上期減少の挽回は難しいと判断し、下方修正いたしました。

2025年度上期 損益の状況

| (百万円) | | | | | |
|---------------------|------------------|------------------|------------------|-------------------|-------------------|
| | 2024年度 2Q累計実績 | 2025年度 2Q累計予想 | 2025年度 2Q累計実績 | 前年同期比 | 予想比 |
| 受注高 | 36,621 | 33,500 | 38,636 | +5.5% | +15.3% |
| 売上高 | 30,464 | 31,000 | 30,322 | △0.5% | △2.2% |
| 売上原価 原価率 | 19,326 63.4% | 19,500 62.9% | 19,767 65.2% | +2.3% 1.8pt悪化 | +1.4% 2.3pt悪化 |
| 売上総利益 | 11,137 | 11,500 | 10,554 | △5.2% | △8.2% |
| 販管費 | 7,841 | 8,150 | 7,947 | +1.3% | △2.5% |
| 営業利益 利益率 | 3,296 10.8% | 3,350 10.8% | 2,607 8.6% | △20.9% 2.2pt悪化 | △22.2% 2.2pt悪化 |
| 経常利益 | 3,398 | 3,450 | 2,704 | △20.4% | △21.6% |
| 親会社株主に帰属 する中間純利益 | 2,452 | 2,500 | 1,912 | △22.0% | △23.5% |

上期実績について詳細を説明いたします。

前年同期比では、

受注高は5.5%増加、売上高は0.5%減少しました。

原価率については、1.8ポイント悪化し、販管費は1.3%増加となりました。

営業利益につきましては、20.9%減少しております。

期初予想に対しては、

受注高はプラス15.3%と大幅に増加しましたが、

長納期案件が多かったため、売上高は2.2%減少しました。

販管費は予想よりも抑えることができましたが、原価率が2.3ポイント

悪化したことで、営業利益は22.2%減少し、期初予想を大きく下回りました。

2025年度上期 セグメント別の損益の状況

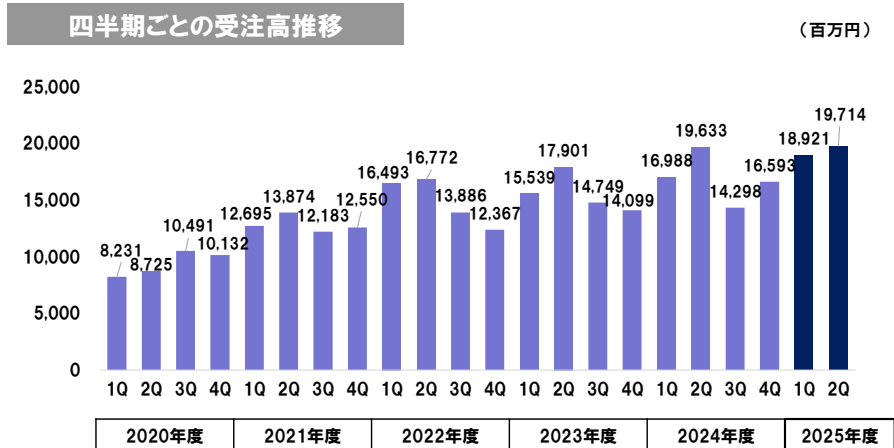
(百万円)

| | | 2024年度 2Q累計実績 | 2025年度 2Q累計予想 | 2025年度 2Q累計実績 | 前年同期比 | 予想比 |
|--------|------|------------------|------------------|------------------|--------|--------|
| 装置事業 | 受注高 | 31,868 | 28,430 | 33,127 | +3.9% | +16.5% |
| | 売上高 | 26,469 | 26,420 | 25,887 | △2.2% | △2.0% |
| | 営業利益 | 3,013 | 2,910 | 2,551 | △15.3% | △12.3% |
| サービス事業 | 受注高 | 4,176 | 4,520 | 4,224 | +1.2% | △6.5% |
| | 売上高 | 3,701 | 4,210 | 3,780 | +2.1% | △10.2% |
| | 営業利益 | 324 | 490 | 56 | △82.4% | △88.4% |
| その他事業 | 受注高 | 808 | 800 | 1,500 | +85.6% | 87.6% |
| | 売上高 | 521 | 600 | 880 | +68.7% | 46.8% |
| | 営業利益 | △31 | △50 | △2 | - | - |
| 連結消去 | 受注高 | △232 | △250 | △215 | - | - |
| | 売上高 | △227 | △230 | △226 | - | - |
| | 営業利益 | △10 | 0 | 1 | - | - |
| 計 | 受注高 | 36,621 | 33,500 | 38,636 | +5.5% | +15.3% |
| | 売上高 | 30,464 | 31,000 | 30,322 | △0.5% | △2.2% |
| | 営業利益 | 3,296 | 3,350 | 2,607 | △20.9% | △22.2% |

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2025年度上期 受注高

- 受注高は前年同期比で減少予想だったが、ターゲット市場のAI半導体関連が堅調、北米では衛星通信関連が想定以上に拡大、東南アジアは半導体、エレクトロニクス関連の投資が好調、上期受注高は、5期連続で過去最高を更新



2025年度上期の受注高については、これまで当社業績をけん引してきたEVバッテリー市場が減速すると想定し、前年同期比で減少すると見ておりましたが、ターゲット市場であるAI半導体関連が堅調に推移し、特に北米において衛星通信関連の投資が想定以上に拡大しました。

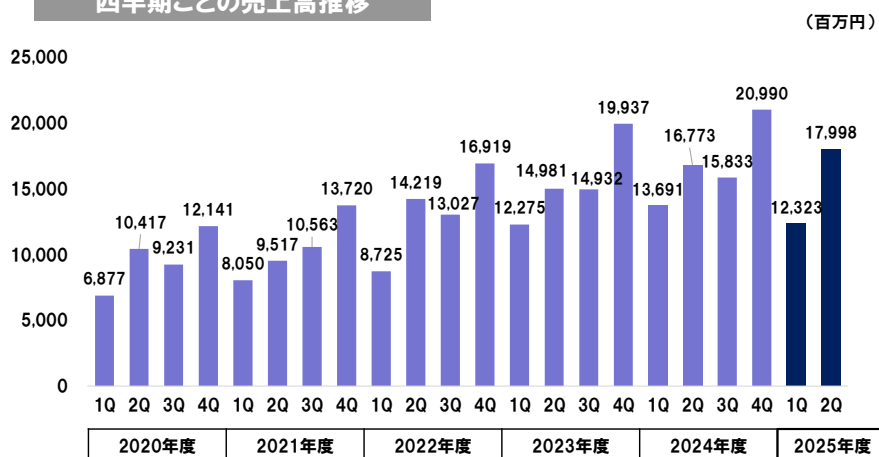
また、東南アジアにおいても半導体、エレクトロニクス関連の投資が好調だったことから、上期としては、5期連続で過去最高を更新いたしました。

なお、前年同期比の為替変動によるマイナスの影響が約6億円ありました。

2025年度上期 売上高

- 長納期案件の増加により、第2四半期に売上が集中
上期売上高は前年同期並み

四半期ごとの売上高推移



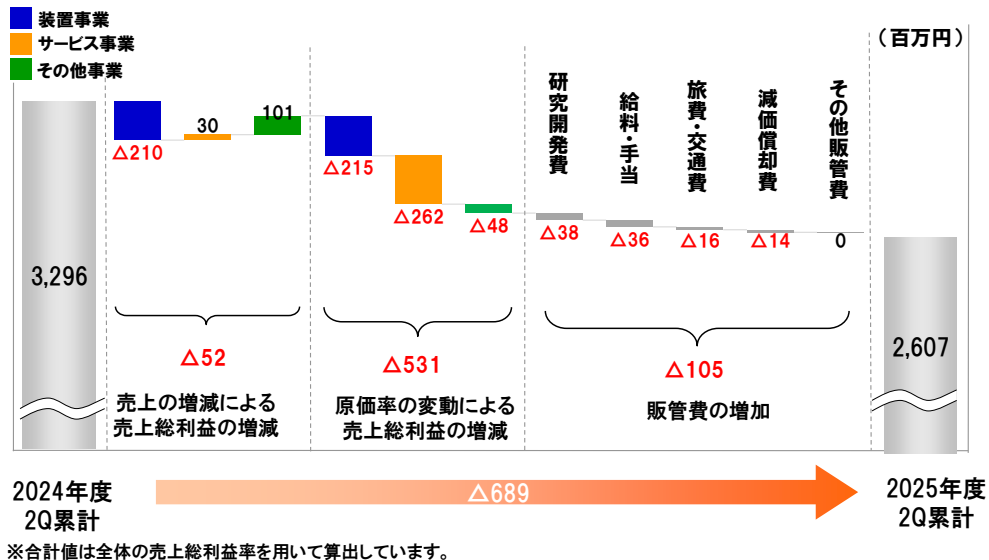
売上高につきましては、

長納期案件の増加により、第1四半期はスロースタートとなりましたが、
第2四半期に売上が集中し、上期では前年同期並みとなりました。

なお、為替変動によるマイナスの影響が約4億円ございました。

上期営業利益の増減要因分析

- 装置事業は、長納期案件の増加による売上高の遅れや、カスタム製品の収益性改善は進んでいるものの中国における競争激化により減益。サービス事業は受託試験の売上が伸びず原価率が悪化し減益。販管費は成長に向けた研究開発費や受注拡大に伴う活動費が増加



こちらは、営業利益の増減要因分析です。

装置事業につきましては、長納期案件の増加による売上高の遅れや、カスタム製品の収益性改善は進んでいるものの、中国における競争激化により減益となりました。

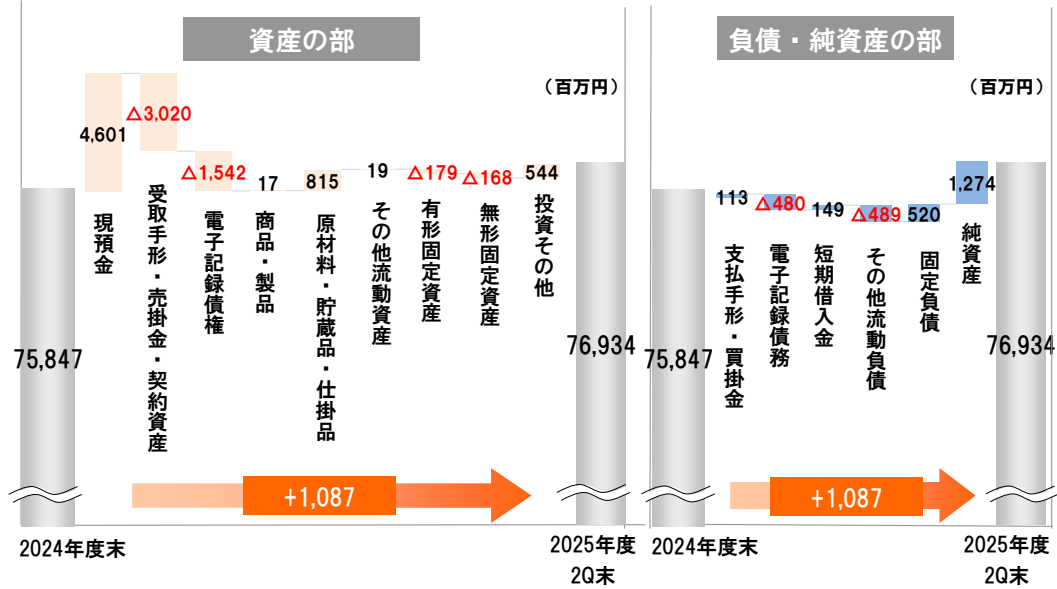
サービス事業につきましては、受託試験の売上が伸びず、減価償却費の増加や人員増による費用を吸収できず原価率が悪化し、減益となりました。

販管費は成長に向けた研究開発費や受注拡大に伴う活動費が増加しました。

これらの結果、前年同期比で6.8億円減少いたしました。

資産・負債の状況

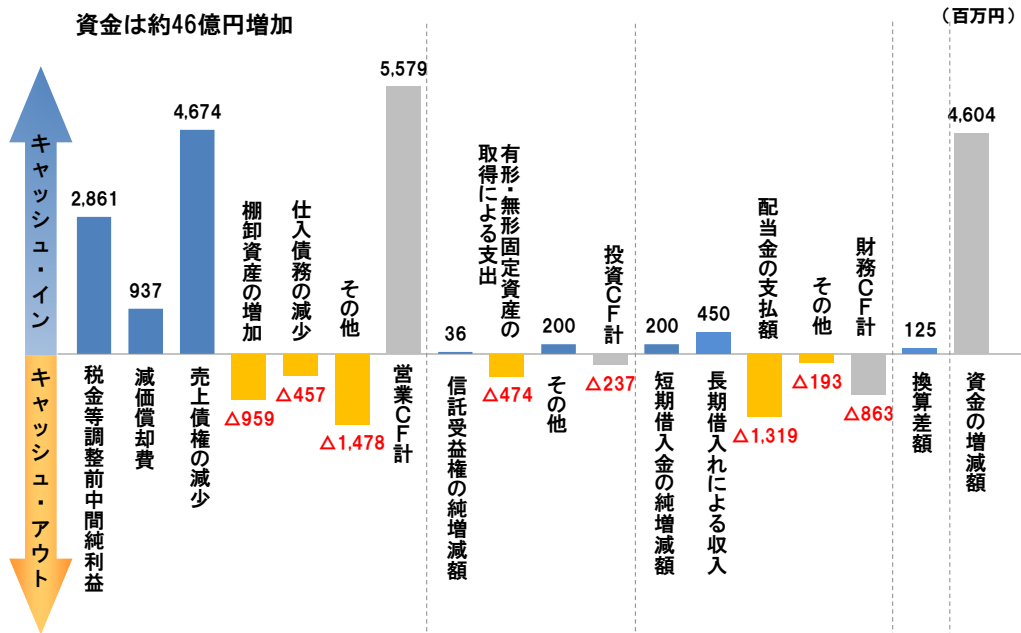
■ 売上債権の回収が進み現預金が増加するとともに、受注残高の増加により棚卸資産が増加し、総資産は約11億円増加



資産・負債の状況につきましては、ご覧のとおりです。

キャッシュフローの状況

■ 主に税金等調整前中間純利益の計上や売上債権の減少により、
資金は約46億円増加



キャッシュフローの状況につきましては、ご覧のとおりとなり、
資金は前期末から約46億円増加し、約173億円となりました。

装置事業セグメント

(百万円)

| | 2024年度 2Q累計実績 | 2025年度 2Q累計予想 | 2025年度 2Q累計実績 | 前年同期比 | 予想比 |
|------|------------------|------------------|------------------|--------|--------|
| 受注高 | 31,868 | 28,430 | 33,127 | +3.9% | +16.5% |
| 売上高 | 26,469 | 26,420 | 25,887 | △2.2% | △2.0% |
| 営業利益 | 3,013 | 2,910 | 2,551 | △15.3% | △12.3% |
| 利益率 | 11.4% | 11.0% | 9.9% | △1.5pt | △1.1pt |

環境試験器

- 国内では、汎用性の高い標準製品は前年同期比で受注高・売上高ともに増加
カスタム製品は、EV・バッテリー関連を中心に好調であった前年同期と比較して
受注高は減少したものの、売上高はAI半導体関連が堅調に推移し増加
- 海外では、前年同期比で受注高は北米、東南アジアにおいて大幅に増加したが、
長納期案件が多く売上高は減少

エナジーデバイス装置

- EVバッテリー向け投資が一巡し、前年同期比で受注高・売上高ともに大幅に減少

半導体関連装置

- 受注高は前年同期比で減少したが、売上高はAIサーバー用電子部品向け一括案件の売上計上
により大幅に増加

つぎに、セグメント別の状況についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、主に環境試験器において北米の衛星通信関連と、日本のAI半導体関連が堅調に推移し、前期比で受注高は増加しましたが、売上高は減少、営業利益も減少いたしました。

製品群ごとの状況はご覧のとおりです。

サービス事業セグメント

| | 2024年度 2Q累計実績 | 2025年度 2Q累計予想 | 2025年度 2Q累計実績 | 前年同期比 | (百万円) 予想比 |
|------|------------------|------------------|------------------|--------|--------------|
| 受注高 | 4,176 | 4,520 | 4,224 | +1.2% | △6.5% |
| 売上高 | 3,701 | 4,210 | 3,780 | +2.1% | △10.2% |
| 営業利益 | 324 | 490 | 56 | △82.4% | △88.4% |
| 利益率 | 8.8% | 11.6% | 1.5% | △7.3pt | △10.1pt |

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

- EV需要減速に伴う投資抑制や開発計画の変更の影響を受け、前年同期比で受注高が減少し、売上高は前年同期並み

次にサービス事業ですが、
アフターサービス・エンジニアリングは堅調に推移しましたが、
受託試験サービスの収益性が悪化し、大幅に営業利益が減少しました。

その他事業セグメント

(百万円)

| | 2024年度 2Q累計実績 | 2025年度 2Q累計予想 | 2025年度 2Q累計実績 | 前年同期比 | 予想比 |
|-------------|------------------|------------------|------------------|--------|--------|
| 受注高 | 808 | 800 | 1,500 | +85.6% | +87.6% |
| 売上高 | 521 | 600 | 880 | +68.7% | +46.8% |
| 営業利益 利益率 | △31 △5.9% | △50 △8.3% | △2 △0.3% | - | - |

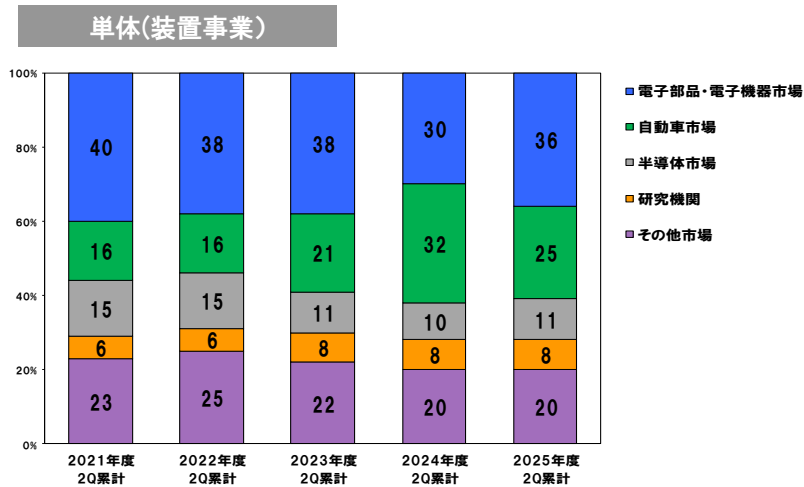
環境保全・植物育成装置

- 植物工場の大型案件を獲得するとともに、植物研究用装置や森づくりも堅調に推移

その他事業につきましては、植物工場の大型案件を獲得し、
受注高・売上高ともに増加しました。
利益面につきましては、前年同期比で改善しましたが営業損失となりました。

市場別売上構成比

- 電子部品・電子機器、半導体市場は、AI半導体関連の試験需要が増加し構成比が上昇
自動車市場は、EV・バッテリー関連の投資に一服感が見られ構成比が低下



ESPEC CORP.

14

こちらはエスペック単体の市場別売上構成比です。

ブルーの「電子部品・電子機器市場」は、AI半導体関連を中心に売上高が増加し、比率としては6ポイント増加しました。

グリーンの「自動車市場」は、EV需要の減速により売上高が減少し、比率は7ポイント減少しました。

グレーの「半導体市場」は、売上高は堅調に推移し、比率は1ポイント増加しました。

オレンジの「研究機関」は民間や国公立の研究機関や受託試験機関が含まれます。売上高は増加しましたが、比率としては前年同期と同じ8%となりました。

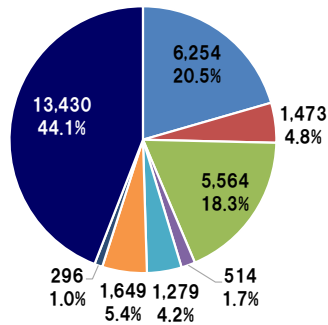
一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれており、例年20～25%程度を占めております。

地域別売上構成比

- 売上高は日本、東南アジア・インド、台湾、韓国が増加。
北米は受注好調も長納期案件が多く減少、中国は前年同期並み

2024年度 2Q累計

海外売上高比率:55.9%

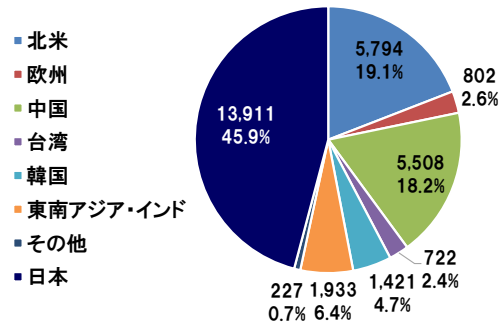


計 30,464百万円

海外売上高:17,033百万円

2025年度 2Q累計

海外売上高比率:54.1%



計 30,322百万円

海外売上高:16,410百万円

地域別の売上構成につきましては、海外売上高比率は54.1%となり、前年同期比で、やや低下しました。

売上高が増加したエリアとしましては、国内では、EVバッテリー向けは減少したものの、AI半導体関連を中心に堅調に推移し、売上高は増加し、比率も上昇しました。

東南アジアは、半導体・エレクトロニクスが堅調、インドは半導体や四輪・二輪が堅調に推移し、売上高も比率も増加しました。

台湾は、サーバー関連が堅調に推移し、増加しました。

北米は、衛星通信分野が好調で、受注高は増加したものの、長納期案件が多く、売上高は減少し、比率も低下しました。

また、欧州は、景気低迷の影響により売上高が大幅に減少しました。

中国、韓国は、関税影響による様子見などにより受注高は低調でしたが、売上高は、中国は前年同期並み、韓国は増加しました。

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の進捗状況

- ・中計「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)の初年度として、ターゲット市場の開拓やモノづくりの高効率化に向けた投資計画策定、新製品開発は計画通り進捗
- ・株主還元方針に基づき、11月13日に自社株買いの実施を発表
- ・成長戦略の着実な実行と収益性改善施策の強化により基本方針「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」を目指す

■中計 2027年度目標

売上高 700億円
営業利益 105億円
営業利益率 15.0%
当期純利益 76億円
ROE 12.0%以上

次に、今年度からスタートした中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」の進捗状況についてご説明いたします。

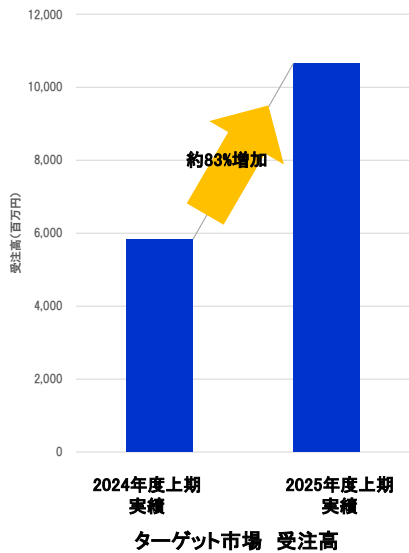
初年度である今期の業績は遺憾ながら修正を行いましたが、ターゲット市場の開拓や、モノづくりの高効率化に向けた投資計画の策定、新製品開発といった成長戦略は計画通り進捗しております。

また、資本政策としましても、今年5月に改定した株主還元方針に基づき、自社株買いの実施を発表しました。

引き続き、成長戦略の着実な実行と収益性改善施策の強化により、基本方針「筋肉質で持続可能な高利益体質の確立」を目指してまいります。

中計 ターゲット市場の試験需要と開拓状況

■ ターゲット市場(AI半導体、自動運転、衛星通信)の受注高は、AI半導体は日本、東南アジアが好調、また北米にて衛星通信が拡大し、前年同期比で約83%増加



| 市場 | 試験対象 | 提供製品 |
|-------|-------------------------------------|---|
| AI半導体 | AIサーバー 半導体 電子部品・材料 HDD、SSD | ハイパワー恒温恒湿器 急速温度変化チャンバー 恒温恒湿器・室 冷熱衝撃装置 高度加速寿命試験装置 HDD検査装置 計測システム |
| 自動運転 | 統合ECU センシングデバイス | ハイパワー恒温恒湿器 恒温恒湿器 小型環境試験器 冷熱衝撃装置 |
| 衛星通信 | 小型人工衛星 人工衛星搭載部品 | HALT試験装置 ハイパワー恒温恒湿器 冷熱衝撃装置 恒圧恒温恒湿器 |

中期経営計画のターゲット市場の開拓状況としましては、AI半導体・自動運転・衛星通信分野の合計で受注高は前年同期比で約83%増加しました。

AI半導体は約1.2倍となり、試験対象の中では主に半導体や電子部品・電子材料が増加しました。

また、衛星通信は北米にて小型人工衛星の検査需要が急激に増加し、約6倍となりました。

自動運転は、今のところ大きな動きは見られません。

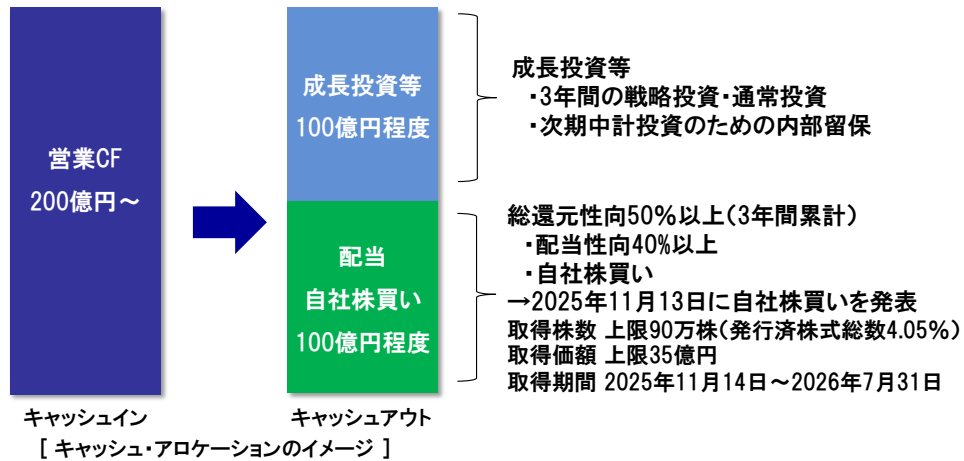
前期はAI半導体がターゲット市場の7割を占めていましたが、衛星通信市場の急拡大により、構成比はAI半導体と衛星通信が同等となっています。

キャッシュ・アロケーション方針(2025～2027年度)

キャッシュ・アロケーション方針

3年間で創出したキャッシュを成長投資と株主還元積極的に配分する

■配当と自社株買いで総還元性向50%以上(3年間累計)の株主還元を実施



次に資本政策についてですが

当社は中計および「資本コストや株価を意識した経営」として、5月に、中計期間のキャッシュアロケーション方針と株主還元方針を、発表しております。

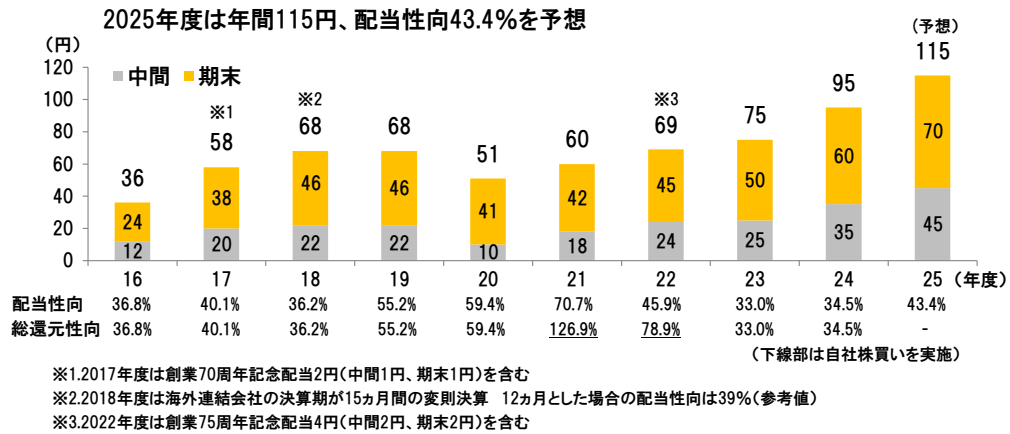
これに基づき、11月13日に自社株買いの実施を発表しました。取得株数の上限は90万株、取得価額の上限は35億円です。また、取得期間は11月14日から来年7月31日としております。

株主還元方針と2025年度配当予想

株主還元方針

配当性向を40%以上とし自己株式取得を機動的に実施
 中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」(2025～2027年度)の期間は、
 3年間累計で総還元性向を50%以上とし減配しない

一株当たり配当金と配当性向・総還元性向



2025年度の配当予想につきましては、期初から変更しておらず、
 中間45円、期末70円、年間115円を予定しております。

2025年度 環境認識

中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信を中心にグローバルに受注獲得を目指す

| | | |
|--------|-----------------------|---|
| 装置事業 | 環境試験器 | 日本：EV・バッテリー向け投資(主に生産用途)は減少、AI半導体関連の投資は堅調 中国：自動車関連は低迷、半導体・エレクトロニクスは堅調 ASEAN：半導体・エレクトロニクスが好調 インド：半導体関連が好調、自動車(四輪、二輪)も堅調 北米：衛星通信関連を中心に好調 欧州：経済減速により低調 |
| | エネルギーデバイス装置 | EVバッテリー向け投資の一巡により低調 |
| | 半導体関連装置 | メモリ向けは低調、AIサーバー向けバーンイン装置や計測システムは堅調 |
| サービス事業 | アフターサービス 受託試験・レンタル | アフターサービス：保守契約拡販により堅調に推移 受託試験：EVバッテリー関連の試験は踊り場、バッテリー以外の電動化・自動運転モジュール向け環境試験は堅調 |
| その他事業 | 環境保全 植物育成装置 | 植物工場や植物研究用装置など植物育成装置が堅調 |

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

中計ターゲット市場のAI半導体、衛星通信を中心に、グローバルに受注獲得を目指してまいります。

環境試験器につきましては、日本では、EV・バッテリーの需要は減少するものの、AI半導体関連の投資は堅調に推移すると予想しております。

中国は、自動車関連は低迷しますが、半導体、エレクトロニクス関連は堅調に推移すると見ております。

ASEANは、半導体・エレクトロニクス関連が好調と見ております。

インドにおいては、半導体関連が好調に推移するとともに、二輪・四輪といった自動車関連も堅調と見ております。

北米は、引き続き衛星通信を中心に好調に推移すると見ております。

欧州は、経済減速により低調が続くと見ております。

エネルギーデバイス装置は、EVバッテリー向け投資の一巡により低調が続くと見ております。半導体関連装置につきましては、メモリ向けは低調ですが、AIサーバー向けバーンイン装置や計測システムは堅調に推移すると予想しております。

受託試験につきましては、EVバッテリー関連の試験は踊り場となるものの、バッテリー以外の電動化・自動運転モジュール向け環境試験は堅調と見ております。

2025年度 セグメント別の業績予想

| | | (百万円) | | | | | |
|--------|------|--------------------|----------------------|----------|-----------------------|--------|--------|
| | | 2024年度 通期 実績 | 2025年度 通期 期初予想 | 上期 実績 | 2025年度 予想(11/13修正) | | |
| | | | | | 下期 | 通期 | 前期比 |
| 装置事業 | 受注高 | 57,283 | 55,500 | 33,127 | 25,513 | 58,640 | +2.4% |
| | 売上高 | 57,507 | 57,600 | 25,887 | 31,672 | 57,560 | +0.1% |
| | 営業利益 | 6,610 | 7,340 | 2,551 | 4,428 | 6,980 | +5.6% |
| | 利益率 | 11.5% | 12.7% | 9.9% | 14.0% | 12.1% | +0.6pt |
| サービス事業 | 受注高 | 8,532 | 9,200 | 4,224 | 4,295 | 8,520 | △0.2% |
| | 売上高 | 8,425 | 9,200 | 3,780 | 4,859 | 8,640 | +2.5% |
| | 営業利益 | 793 | 1,080 | 56 | 443 | 500 | △37.0% |
| | 利益率 | 9.4% | 11.7% | 1.5% | 9.1% | 5.8% | △3.6pt |
| その他事業 | 受注高 | 2,170 | 1,800 | 1,500 | 840 | 2,340 | +7.8% |
| | 売上高 | 1,758 | 1,700 | 880 | 1,419 | 2,300 | +30.8% |
| | 営業利益 | 126 | 80 | △2 | 123 | 120 | △5.5% |
| | 利益率 | 7.2% | 4.7% | △0.3% | 8.6% | 5.2% | △2.0pt |
| 連結消去 | 受注高 | △472 | △500 | △215 | △285 | △500 | - |
| | 売上高 | △403 | △500 | △226 | △273 | △500 | - |
| | 営業利益 | △4 | 0 | 1 | △2 | 0 | - |
| 計 | 受注高 | 67,514 | 66,000 | 38,636 | 30,364 | 69,000 | +2.2% |
| | 売上高 | 67,288 | 68,000 | 30,322 | 37,678 | 68,000 | +1.1% |
| | 営業利益 | 7,526 | 8,500 | 2,607 | 4,993 | 7,600 | +1.0% |
| | 利益率 | 11.2% | 12.5% | 8.6% | 13.3% | 11.2% | ±0pt |

ESPEC CORP.

21

こちらは、2025年度のセグメント別の業績予想です。

装置事業につきましては、

受注高は期初予想からプラス31億円といたしました。

売上高は、ほぼ期初計画通りです。

営業利益は、下期は期初予想を据え置いています、

上期の減少をカバーすることは難しく、マイナス3.6億円としております。

サービス事業につきましては、

受託試験を中心に、受注高・売上高を下げております。

これにより、営業利益をマイナス5.8億円と大幅に見直しております。

上期に植物工場の大型受注を獲得したその他事業につきましては、

受注高・売上高・営業利益、いずれも期初予想を上回る想定です。

2025年度 投資計画

中計3年間の成長投資計画95億円、研究開発費計画48億円は変更なし

(百万円)

| | 2024年度 | 2025年度 | | | |
|-------|--------|--------|----------|-------|--------|
| | 通期実績 | 上期実績 | 予想(修正なし) | | |
| | | | 下期 | 通期 | 前期比 |
| 設備投資額 | 3,690 | 719 | 1,871 | 2,590 | △29.8% |
| 減価償却費 | 1,716 | 927 | 1,063 | 1,990 | +15.9% |
| 研究開発費 | 1,343 | 730 | 1,100 | 1,830 | +36.2% |

■2025年度

主な投資内容

- ・福知山工場の生産設備増強
- ・国内子会社の生産能力強化
(事業所移転)

主な開発内容

- ・先端技術分野の製品ラインアップ拡充
(主力製品のモデルチェンジ、機種追加)
- ・低GWP冷媒など環境配慮型製品の拡充

投資計画につきましては、中計3年間の成長投資計画95億円、研究開発費計画48億円に変更はございません。

2025年度計画はご覧のとおりです。

2025年度 想定為替レート

■ 想定為替レート

| | 2024年度 | | 2025年度 | |
|---------|--------|--------|--------|------|
| | 上期実績 | 通期実績 | 上期実績 | 通期想定 |
| USドル(円) | 152.77 | 152.62 | 146.03 | 145 |
| ユーロ(円) | 166.05 | 163.87 | 168.05 | 160 |
| 元(円) | 21.16 | 21.11 | 20.29 | 20 |

2025年度為替感応度 (百万円)

| | 売上高 | 営業利益 |
|------|-----|------|
| USドル | +74 | +11 |
| ユーロ | +15 | +10 |
| 元 | +51 | +9 |

※1円円安(元は0.1円)変動時の影響

想定為替レートおよび為替感応度は、ご覧のとおりです。

2025年度 主な取り組み

装置事業

- ・受注残高の消化、標準製品の販売強化、カスタム製品の収益性改善の継続
- ・ターゲット市場の試験ニーズに合致した高付加価値製品の開発および販売強化

サービス事業

アフターサービス: サービス技術料見直し、稼働率改善による原価低減
受託試験: 電動化・自動運転モジュール、航空機器関連の受注拡大

エリア戦略

日本: AI半導体、自動運転分野での営業活動強化、買い替え需要の獲得
米国: 衛星通信分野への販売強化、生産能力増強による収益拡大
中国: 半導体、通信分野への、競争力のある製品投入・販売強化による収益改善

2025年度の主な取り組みとしましては、
装置事業では、受注残高の消化と標準製品の販売強化に注力するとともに、
カスタム製品の収益性改善に継続して取り組んでまいります。
また、ターゲット市場の試験ニーズに合致した高付加価値製品の開発、
および販売強化に取り組んでまいります。

サービス事業につきましては、
アフターサービスでは、サービス技術料見直しや稼働率改善による
原価低減に注力いたします。
受託試験では、電動化・自動運転モジュール、航空機器関連の受注拡大を
目指してまいります。

エリア戦略につきましては、
日本では、引き続き、AI半導体、自動運転分野での営業活動強化と
買い替え需要の獲得に取り組めます。
米国では、衛星通信分野への販売強化に加え、生産能力増強により
好調な受注を収益につなげてまいります。
中国では、半導体、通信分野への、競争力のある製品投入と販売強化
により、収益改善を図ります。具体的には環境配慮型製品や、中国の
半導体・エレクトロニクス市場向けに開発した製品を拡販してまいります。

2025年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策：
低GWP冷媒への置き換え、製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動：
環境保全事業による貢献、「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進
TNFD提言に基づく自然資本関連情報開示

■S(社会)

- ・人的資本戦略の展開、新しい人事評価制度の運用開始
- ・インターナルコミュニケーションの推進、健康経営宣言・方針の策定、
エンゲージメント調査の実施
- ・女性管理職の育成(2025年4月女性管理職比率9.8%)、障がい者雇用の促進と定着化
- ・信託型従業員持株インセンティブ・プランの導入

■G(ガバナンス)

- ・BCPの再構築
- ・人権方針の策定

ESGの取り組みにつきましては、

E、環境においては、TNFD提言に基づく自然資本関連情報開示を行いました。

S、社会においては、

4月に、新しい人事評価制度の運用を開始するとともに、健康経営宣言・方針の策定や、エンゲージメント調査の実施などに取り組んでいます。

ダイバーシティの推進としては、2025年4月の女性管理職比率は9.8%となり、着実に成果が表れてきています。

8月には信託型従業員持株インセンティブ・プランを導入しました。引き続き、人的資本の強化に注力してまいります。

TOPICS 1

AIサーバー市場向け新製品

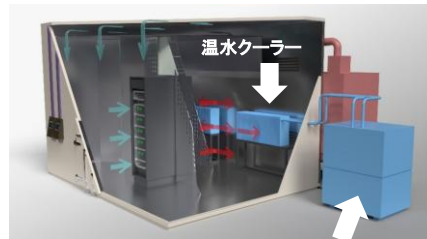
■高発熱負荷対応 恒温恒湿室ウォークインチャンバー

- ・2025年10月、AIサーバーの信頼性評価用として、高発熱負荷に対応した2機種を発売
- ・サーバーによる発熱負荷(30kW、60kW)に対し、独自の制御システムにより精密な温湿度制御を実現
- ・サーバーの信頼性評価に適用される試験規格ASHRAEに適合した試験が可能



恒温恒湿室ウォークインチャンバー

<試験室の内部イメージ>



温水クーラー専用チラー

従来の空調システム+温水クーラーを使った空調システムの組み合わせにより湿度環境にて60kW以上の発熱負荷に対応

次に、TOPICSですが、
今年10月、AIサーバー市場向けの新製品として、
高発熱負荷に対応する恒温恒湿室ウォークインチャンバーを
2機種発売しました。

TOPICS 2

AI半導体・自動運転市場向け新製品

■ 高度加速寿命試験装置(HAST CHAMBER) EHS-222M-L

- ・2025年10月、高度加速寿命試験装置に、大型基板の試験に対応したモデル(EHS-222M-L)をラインアップ
- ・一度の試験で大量の試料を評価することが可能
- ・電子部品等の開発期間短縮と高信頼性の確保に貢献



高度加速寿命試験装置 EHS-222M-L

■ 急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

- ・2025年4月、急速温度変化チャンバーに試料温度を20°C/分で制御可能なハイパフォーマンスモデルをラインアップ
- ・半導体パッケージの信頼性試験規格、エレクトロニクス、自動車市場などの国際規格に適合
- ・低GWP※冷媒「R-449A」を標準搭載



急速温度変化チャンバー TCC-151W-20

※GWP:地球温暖化係数。値が小さいほど環境負荷が少ない

また、AI半導体・自動運転市場向けの新製品として、大型基板に対応した高度加速寿命試験装置や、急速温度変化チャンバーのハイパフォーマンスモデルを発売しました。

TOPICS 3

「あいち次世代モビリティ・テストラボ」サービス開始 車載用バッテリーおよびEV・自動化モジュールの試験需要に対応

■あいちバッテリー安全認証センター

- ・国内最大級の車載用バッテリー専門試験所として2025年2月開設
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化大容量化に対応
- ・国連規則ECE-R100の安全性試験をはじめとする各種試験規格に対応



あいちバッテリー安全認証センター
(愛知県常滑市)

■豊田試験所

- ・当社最大の総合試験所である豊田試験所の機能を拡張(2025年4月サービス開始)
- ・e-Axle・PCU・ECUなど供試品の大型化に対応
- ・EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

今年2月には、「あいち次世代モビリティ・テストラボ」を開設しております。
あいちバッテリー安全認証センターは、顧客の投資に遅れが見られますが、
豊田試験所は堅調に推移しております。

社外からの評価

■ ESG関連の評価

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」組み入れ
ESG指数「S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数」組み入れ
- ・CDP 気候変動分野の調査で5年連続「Bスコア」、水セキュリティは「B-スコア」
「サプライヤーエンゲージメント評価」では、3年連続最高評価の
「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」に選定
- ・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選定
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- ・神戸R&Dセンターが全国みどりの工場大賞「経済産業大臣賞」受賞
- ・厚生労働大臣より「子育てサポート企業」として「プラチナくるみん」取得
- ・大阪市「女性活躍リーディングカンパニー」認証にて
「三つ星認証」「イクメン推進企業認証」取得

■ IRサイトの評価

- ・「大和インターネット IR表彰」優良賞
- ・日興アイ・アール「全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・「Gomez IRサイトランキング」銅賞(業種別17位)
- ・「Gomez ESGサイトランキング」優秀企業



最後に、当社をご覧のような機関からのご評価をいただいております。
今後の取り組みに活かしてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスベック株式会社

サステナビリティ推進部 IR・広報グループ

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC

ESPEC CORP.